出前講座報告書

平成29年10月13日　県北保健福祉事務所

NO. 5

災害後の保健活動 東日本大震災時の体験から学ぶ

震災から６年が経った今だからこそ、あのときに抱えてた思いや大切にしていたこと、どのような活動をしたのかについて話し合い、伝えることが必要になると思います。今回の研修では、講師の末永先生ご自身の体験や宮城県の保健師へのインタビュー結果についてお話を聞いた後、グループで参加者自身の体験や感じたことについて話し合いました。

講義の様子

講義では、災害時に保健師へ求められることについて、末永先生ご自身の体験や宮城県沿岸部の保健師へのインタビューに基づくお話をうかがいました。災害発生時の保健活動では、保健師として自律的に動きながら、地域の資源や外部からの支援を被災地の各ニーズに合わせてうまくつなぎ活かすことが求められます。

危機的状況下の混乱の中では日ごろの活動の積み重ねが重要となります。日ごろから地域の実態、特徴についてよく知っておくことが、保健師には大切です。また、災害後の地域づくりにおいても住民との関係を築きながら、主体的に動くことが保健師には求められます。

▲ご自身の体験から災害時に保健師に求められることをお話になる末永先生。

～講師紹介～

福島県立医科大学
医学部災害公衆衛生看護学講座
教授　末永カツ子

＊略歴
- 自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務
- 東北大学大学院教育学研究科後期博士課終了（教育学博士）
- 東北大学医学系研究科　地域ケアシステム看護学分野教授
- 長崎大学・福島県立医科大学　共同大学院　災害・被ばく医療科学共同専攻教授

＊専門領域
- 公衆衛生看護学
- 地域ケアシステム論

グループワークの様子

グループワークでは、震災当時に感じたことや印象に残ったことについてグループ内で共有しました。参加者の中には、当時から保健師として働いていた方もいれば、高校生だった方もいらっしゃいました。当時の様々な立場の話から学ぶことは多いでしょうが、日々の業務に追われる中では、当時の話をする機会もなかなかないかもしれません。今回の研修での共有は良い機会になったと思われます。

◀震災時に感じたことや印象に残ったことについて共有し、グループでまとめています。

▶震災時の参加者の体験にみんなで耳を傾けました。

アンケート集計結果

アンケート回収数は、参加者32名中30名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	63%
時間配分は適切だった	90%
進行は適切だった	100%
講義について	
講義内容が理解できた	93%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	97%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	100%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	73%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	80%
今後の研修に向けて	
今日のような研修にまた参加したいと思う	90%
この研修への参加を同僚にお勧めしたいと思う	90%

＊ 5段階評価：「1．全くそう思わない」～「5．大いにそう思う」の４と５の合計

編集後記

東日本大震災における保健活動を振り返り、今だから話せることをテーマとして参加者で話し合いました。東日本大震災から６年が経過した今だからこそ、当時様々な思いを抱えながら必死に保健活動にあたっていたことを共有することができ、保健活動の原点、保健師に求められる役割を考えることができると思います。当時の活動記録を拝見し、今後の活動にいかしていこうと思います。（吉田）

＊復習ポイント＊

- 震災時に保健師に求められること役割とは？
- 保健活動の目的とは？
- 保健活動を共有する意義は？

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

本出前講座は「福島県保健師現任教育指針」及び文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業（機関型）」の枠組みで開催されました。